# 9-8 琵琶湖と淀川流域

琵琶湖とその下流域は水の流れを通じて密接に関係しています。これまで、琵琶湖淀川流域では、私たちの生活が便利になるように水を利用してきました。これからは生物の生息環境や水辺の景観などを流域全体で大切に守っていくことも重要になっています。

## 1．琵琶湖淀川流域の概要

日本最大の湖「琵琶湖」を源とする淀川は、その上流部では瀬田川、中流部では宇治川と呼ばれ、京都府・大阪府境界付近で桂川、木津川と合流した後、大阪市をはじめとする近畿圏の中心部を貫き大阪湾に注ぐ流域面積8240 km²、幹川流路延長75.1kmの一級河川です。このように、琵琶湖淀川流域は、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良の２府４県にまたがり、流域面積、流域内人口などにおいても日本を代表する大流域です。

## 2．琵琶湖淀川流域における琵琶湖の役割

琵琶湖流域の面積は、琵琶湖を含む淀川流域全体の約半分を占め、淀川の年間流量の多くが琵琶湖から流れ出ています。このため、淀川の水量は比較的安定しています。さらに琵琶湖流域からの水は一旦琵琶湖に貯留されることから、琵琶湖は淀川下流域の洪水時の調節や少雨時の水道水の確保などの様々な役割を果たしています。

| | 平均流量 m³/秒 | 年間流量 百万m³/年 |
|---|---|---|
| 瀬田川 | 136 | 4,341 |
| 宇治川 | 176 | 5,537 |
| 桂川 | 46 | 1,453 |
| 木津川 | 50 | 1,546 |
| 淀川本川 | 267 | 8,453 |

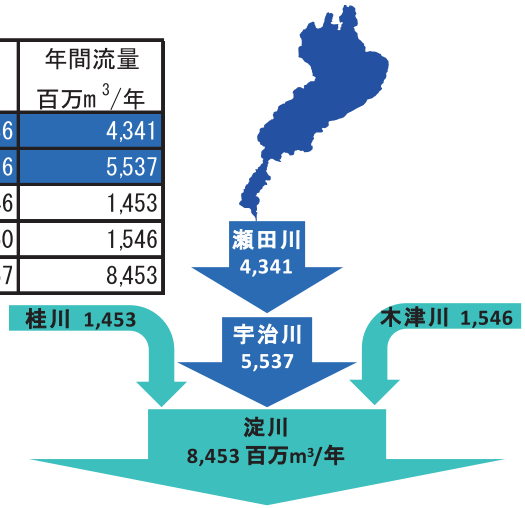


図9-8-1　淀川に占める琵琶湖の流量
（琵琶湖・淀川水質保全機構「BYQ水環境リポート」2015より作成）

## 3．これまでの取組

琵琶湖淀川流域では、特に明治以降、近代河川技術を背景に、洪水被害を軽減することや利用できる水量を増やすため、河川で流せる水量を増加させることや琵琶湖から流れる水量を調節することなどの取組が行われてきました。

## 4．流域の課題

琵琶湖と下流域は水の流れを通じて密接に関係しており、このため琵琶湖の問題は流域全体に影響を及ぼしています。

ブラックバスなどの外来種の繁殖は流域全体で共通している課題です。渇水による琵琶湖の水位低下は、下流の京阪神地域への水道補給量の減少や琵琶湖周辺での貝などの生物の死滅等の問題を引き起こすこともあります。また、琵琶湖で水質汚染が起これば流域の広範囲に影響を与えることになります。このような課題には琵琶湖だけでなく流域全体での対応が必要となります。

## 5．これからの取組

これまで流域では、私たちの生活が便利になるように水を利用してきましたが、現在、気候変動による洪水や渇水の多発、琵琶湖や淀川の生態系の変化などの様々な問題が深刻になってきています。

これからは、生物の生息環境や水辺の景観、子供たちの学習や遊びの場など、今までなにげなく私たちが自然から受けてきた恩恵を流域全体で大切に守っていくことも重要になっています。

表9-8-1　琵琶湖周辺でのこれまでの取り組み

| 時　期 | 主な取組 |
|---|---|
| 明治以前 | 住民による瀬田川掘削 |
| 明治～<br>大正期ごろ | 琵琶湖疏水の設置<br>淀川改良工事等の実施<br>南郷洗堰の設置 |
| 昭和戦前期 | 第１期河水統制事業 |
| 戦後30年代～<br>40年代前半ごろ | 多くの琵琶湖開発構想<br>多目的ダムの建設<br>瀬田川洗堰の設置<br>淀川水系水資源開発基本計画の策定<br>滋賀県造林公社の設立 |
| 昭和40年代後半<br>～平成初期ごろ | 琵琶湖総合開発の開始<br>琵琶湖富栄養化防止条例の施行<br>第１期湖沼水質保全計画の策定 |
| 平成初期ごろ～<br>これまで | 琵琶湖淀川水質保全機構の設立<br>琵琶湖総合開発事業の終結<br>瀬田川洗堰操作規則の制定<br>第３回世界水フォーラムの開催<br>都市再生プロジェクトの開始<br>「琵琶湖・淀川流域圏の再生」<br>淀川水系水資源開発基本計画の改定<br>淀川水系河川整備計画の策定<br>琵琶湖の保全及び再生に関する法律の施行<br>琵琶湖保全再生施策に関する計画の策定 |
| これから | これまでの経緯を踏まえ、時代のニーズに応える<br>琵琶湖淀川の新たな流域管理が必要 |

流域政策局

【流域】河川に流れ込む雨水（氷雪水も含む）が降る地域をいい、集水域とも言います。また、河川水を利用する地域を含む場合もあります。